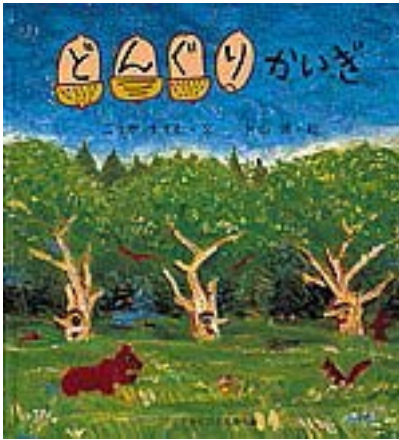


【緑地を楽しむ本】

## 『どんぐりかいぎ』 かがくのとも傑作集

こうやすすむ・文 片山健・絵

福音館書店（1995）



ずっとむかし、どんぐりの木はいつもいっぱいどんぐりを実らせていました。動物たちは喜んでそれを食べ、その様子を木々は楽しそうに見ていました。

というのは、冬に備えてどうぶつたちは

あちこちにどんぐりの実を埋めます。でも食べ忘れた種から、春になるとどんぐりのこどもの木が出てくるのです。動物たちの協力で、無事に子どもの木ができていたのです。

ところが豊富などんぐりを食べて動物はどんどん増

え、食べ残されるどんぐりはなく、こどもの木も出なくなっていました。

そこで、どんぐりの木は集まって会議を開きました。どうしたら子どもの木が出るようになるのだろうか？

・・・今年はずっとどんぐりたちは集まって「不成年」にしようと思ったのでしょ。例年ざくざくとおちるコナラやクヌギのどんぐりは、今年はず数えるほどしかできていません。自然の厳しい掟で、動物の数は調節されるはずなのです・・・人間社会のゴミをあさればおいしいものが食べられると、動物たちが学習しなければ。

すでに各地からクマ出没情報などが届いています。今年の冬、動物たちはどうなっていくのか、気になります。

（小川）